



新十津川望郷会

会報 第十二号

望郷会報十二号の
発刊にあたり



就任あいさつ

しくお願い申し上げます。

退任された山本前会長には、十二年間にわたり会長として本会の為にご尽力いただき、会員一同心から感謝申し上げます。

私もこの種の団体に關係してまいりましたが、運営の難しさを感じている一人です。幸い、本会には各地区に支部組織があつて、会員同志の交流は十分に行われております。したがつて望郷会本部としては、町当局と常に連携がとれていることが重要と考えています。

さわやかな季節の中、会員の皆様には益々お元気でお過ごしのことと思います。

今年は、残雪も少なく暖かい日が続き、桜前線が一気に駆け抜けたこともあります。季節の移ろいをしており、早くも真夏を迎えることもあり、早くも真夏を迎えたことを感じながら、今年も豊かに作況に恵まれますよう心からお祈りしたいと思います。

さて、私事でありますが、昨年の五月総会で、山本前会長の後任として会長に選出されました。もとより不適任とは存じますが、諸般の事情からお引き受けいたしました。ご指導、ご協力のほどよろ

新十津川望郷会会長

高 梓 政 義



新十津川町長
植 田 满

の努力によつてもたらす豊かな暮らしは、かけがえの無い財産であります。

この財産を将来に亘つて守ることは、私たちの責任であり、国が環境基本法を、道が北海道環境基本条例を制定することを受け、本年四月に新十津川町環境基本条例を制定しました。

この条例は、環境の保全と創出のための理念や施策の基本と、行政の責務と町民・事業者の役割を明らかにし、総合的な環境行政の指針を定めたものです。

ごみの減量化やリサイクルの推進、二酸化炭素の排出抑制など、

北海道もいよいよ夏を迎え、ピネシリを望む山々の緑も深まり一年でもっとも活発な季節となりました。望郷会員の皆様には、常日頃、郷土新十津川町にご支援を賜り心から厚く御礼申し上げます。

去年の新十津川は、春先から好天に恵まれ、特に水稻はかつてない豊作となり、高品質米も六九・四%と過去最高の比率となりました。安全安心な食品作りが叫ばれ、北海道米が全国的にも注目されている中で、高食味米がこのように生産できましたことは、大変喜ばしいことであり、生産者の不斷の努力に敬意を表す次第です。

また、新十津川の特産品であるメロンやアスパラガスなども豊作となり、水・土・太陽の恵みと人々

のためのまちづくりについて考え、行動する。行政はその行動を支援し、最少の費用で最大の効果を得る。このような関係を築くためのまちづくり基本条例（仮題）を住民参加で策定しているところであり、来年四月の施行をめ

ざしているところであります。

さて、昨年、民事再生法の適用を受けた金滴酒造株式会社は、この一月から再生計画による経営をスタートさせました。ご心配をお掛けしましたが、おかげさまをもちまして、再出発することができ、多くの人に愛される酒造りを期待して止まないところであります。

また、この四月から統合し新しい学校となつた新十津川小学校に四百四人の児童が元気に登校を始めました。子どもたちが将来に大きく飛翔することを見守っていただき、これからも郷土新十津川町の発展のため、望郷会々員皆様の暖かいご支援とご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆さまのご健康と新十津川望郷会のご発展を心からご祈念申し上げごあいさつといったします。



私は近所の方々から「中川さんは丈夫で体力もある」とお誉めの言葉を戴きますが、もう七十九になりました。元気と言つても年

わたしのひとこと



洞爺湖町
(新十津川望郷会副会長)

中川 昭五

です。少々目も薄らぎ、耳も遠くなりかけています。

今年こそと何かよい目標を立て体力維持のために頑張りたいといろいろ思っています。

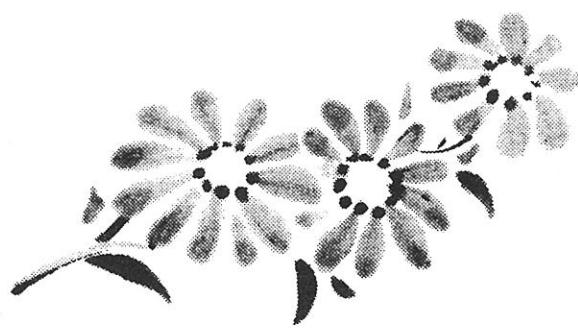
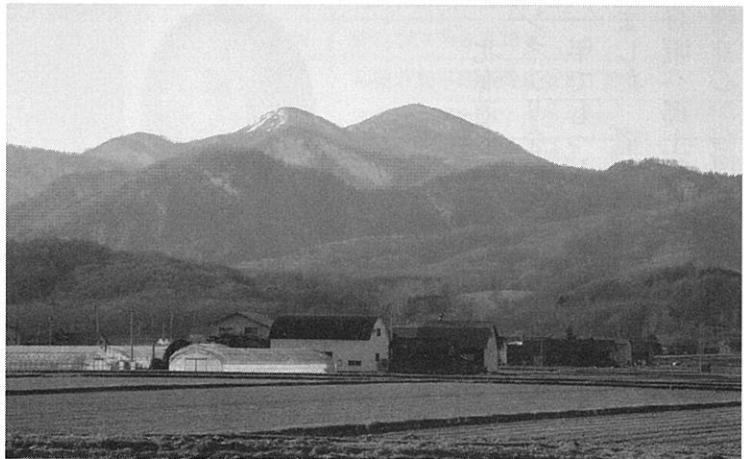
昨年六月望郷会に出席し立派な行事にも参加させていただき感謝しています。

沢山の人にお会いしましたが、

顔がわかつてゐるが名前が思い出せなく失礼をしたことや、二十年、三十年来もの人にお会いして手を取りつて懐かしく思いを語り合い、

本当に懐かしかつたです。これからも参加できなかつた若人に呼びかけ新十津川町の発展に頑張つてもらいたいものですね。

新十津川町に思いを馳せると必ず石狩川の勇壮な流れ、清き流れの徳富川、穏り豊かな黄金色したたんぼ、そして勇壮なピンネの山々が目に写ります。





札幌市
(新十津川望郷会副会長)

増谷俊秀

小学生時代の思い出

新十津川・花月・大和・吉野の各小学校が閉校となり、新生新十津川小学校として再出発し、児童の皆さんも元気に通学している事と思います。

私が小学校に入学したのは、昭和十三年の春でした。今から七十二年前の事です。当時としては、二階建の素晴らしい校舎でした。私は元気で走り回っていました。この校舎の一番奥の教室が割当てられました。最初の担任は霜田貞という女の先生、二学期以降、池の前出身（今の西滝川）佐藤あや子先生でした。

入学しての初行事は運動会。今の大社教の裏にあたる、石狩川沿いの菊水グランドで行われ、一年生は泥鰌つかみ競走でした。一斗樽の中に六～七センチの泥鰌がわ



んさと入っており、一匹を掴んでゴールするという競技でした。今なら考えられない様な競走でした。開拓記念碑とグラウンドの間に池があり、よく鮎やトゲ魚（イトヨ）を釣つたものです。

春の遠足は、一年生は滝川公園まで、当時は交通事故などない時代とは言え、良く歩いたものだと思います。今ならバス遠足でしょうか。

前の年の七月七日に支那事変が勃発していました。思い出が前後しますが、札沼線新十津川駅に出征兵士の見送りが盛んになつたの

擊に始まる太平洋戦争が勃発しました。『ほしがりません勝つまでは』とか校舎の正面玄関には、（大空知総進軍）の垂れ幕が下り、小学校は国民学校と改称され、いよいよ出征兵士の見送りが多くなり、出征する先生を渡舟場まで見送つた事もありました。小学生も高学年は援農に駆り出され、除草機押しや稻刈また畑の除草を割当てられたものです。低学年はクローバーの種を集めため、先生の引率のもと袋を下げ採種していました。甘い物などほとんどなく、オヤツ替りにグスベリ、カレinz、グミ、山ブドウ、おんこの赤い実など、腹がすけば大根の上の青部分や人參等をかじり、イモ、トウキビ、カボチャは良い方でした。

こんな時代ですから修学旅行などなく、六年生の時、当時の佐久

も、この頃からです。

十三年の春に今の所に新橋が完成しましたが、あまり利用されなかつた様に思います。私達は徳富橋の方が川遊びに向いていました。元気な者は橋の欄干から川に飛び込むのが勇気の象徴のようでした。



間校長先生が友人の留萌管内鬼鹿小学校長に依頼して、六年生と高等科二年生の生徒に体練旅行と称して、鬼鹿小学校に五日間宿泊し、毎日の様に海まで駆け足で往復します。

その後は益々戦争は拡大し生活は苦しくなり、物はすべて統制や配給制となり、今の北朝鮮ほどではないにしろひどい状況が続き、終戦へと続いて行きました。そんな時代でしたが、何か頑張ろうと気力だけは持つていた様に思います。

国破れて山河あり、故郷新十津川町の発展を祈念してペンを置きます。

私の親族の家系図



札幌市
(新十津川望郷会理事)

和 平 康 伸

いつまで続くこの不景気問題。

近年はバブルの崩壊の時から始まり原油高に続き大きな金融危機という地球規模の大問題化になってい。この大不況という大きな荒波の中で今は一番苦しい時期と思います。日本は百年に一度という金融不況であり、また、経済危機でもあります。道内でも老舗の倒産が多くなっております。この世界的な大不況から一日でも早く克服が出来る事を期待するものであります。

私達和平家としての待望の行事となつてゐるため、今年も郷土新十津川町において親族合同新年交礼会が盛会に、また楽しい一夜をすごす事が出来ました。今度もグリーンパークしんとつかわにおいて行つております。今ではすっか

り恒例となつて、参加者数も三十名の方々に大変好評となつております。来年の交礼会には新しい親族の方の参加の申出があり、大変よろこんでおります。また、当会では八十才以上の男子は名誉顧問としての挨拶をいただく事になつております。この内容については、必ず十津川郷士の事、また大水害の事と明治二十三年六月に石狩川を渡つてこの新十津川村が出来た事以来の事、また開拓者当時の事などの話をしても皆様に聞いてもらつております。その後の余興などは大変に盛り上がり、カラオケまたはフランダンス、民謡などがあり、また二次会としてカラオケルームに集り大変賑やかに楽しい一夜となりました。翌日は午前中一杯は大広間においてゆっくりと懇談も出来て、すばらしい会になつております。

平成三年頃に田中迪一さん達が十津川郷民の関連系図集を作成致しました。私の叔父で和平敏男さんからも是非造りたいと言つてから、すでに二十年かかつてやつとの事で写真入りで和平家の家系図が出来上りました。百二十九ページ

になりました。それは大変な作業でした。すべて手作りで写真も各家ごとに、また個人別集合写真等を入れて編集がやつとの事で終る事が出来て、ほっとした所です。



深川市
(新十津川望郷会理事)

杉 村 修

毎年十二月第一土曜日に行われている新十津川町望郷会深川支部の忘年懇親会に、本年も、植田町長さん、釣部道議会議長さんのご出席を頂きました事に深くお礼を申し上げます。

昨年十一月九日ゆめりあホールで行われた新十津川町立小学校合同閉校式に参列しました。式では、各校の歴史を振り返るスライドが上映され、児童生徒が新たな学校生活への意欲を発表されたのが強く印象に残りました。その時に配布されました資料に、明治二十四年三月一日、上徳富と下徳富に小学校が設置されたと記載されました。

この事は、私達の祖先（私の先祖は、奈良十津川村は小原、新十津川村は下徳富下四号川一線に入

閉校式に参列して



地)が入植して、半年後に開校しました。この事実を見て、先人は如何に子孫の教育に熱心であったかを知り、改めて畏敬の念を強くしました。



代用教員



(札幌市
(新十津川望郷会理事))

玉堀光夫

詩人石川啄木が、故郷渋民村、渋民小学校の代用教員であつたことは広く知られています。

正規の教員免許を持つ教員を、

戦前は訓導、戦後は教諭と言い、教員免許を持たずに教壇に立つ教員を代用教員と呼んでいました。

私が新十津川小学校の六年間でお世話になつた担任教師は六人いますが、その内三人は代用教員でした。

私の幼・少年期は戦時色一色でした。小学校三年生の時(この年から国民学校)、太平洋戦争が始まると、教育内容は国定教科書による軍國主義教育そのものでしたが、担任教師は皆厳しい中にも愛情をもつて子供の教育に当っていました。

母村 十津川とこの新十津川町が、文武両道に秀いでいる事は、ここから発していると思います。この血を受け継いだ私達は、このことを誇りに思い、今後末永く

望郷会の皆様と連携を強めて自己を高め交流を深くしていきたいと思っています。

戦時中の教育は軍隊式教育と言

われますが、私は小学校六年間で先生に叩かれたことは一度もなく、悪ふざけをして教室の後に立たされたことが一度あるだけで、学校が一番楽しいところでした。

戦後、日教組が結成され、「教え子を再び戦場に送るな」を運動方針の中心スローガンとしましたが、総ての教師が日教組の組合員となりこの方針を支持したことは、戦時中多くの教え子を戦争に送つた深い反省によるものと思っています。

さて、私ごとになりますが、私は昭和二十六年三月、滝川西高校(旧滝川中)を卒業し、十八歳の若さで、幌加内村政和小・中学校(平成十九年三月閉校)の助教諭(代用教員)となりました。教員は十三名で、十名は助教諭でしたがが明るい職場でした。

教員となるための教育実習も、授業参観、講習も一切受けず、四月から男子二十一名、女子九名の六年生の担任となり、教壇に立ちました。

このようにして二年間の助教諭生活も終り、最初はほんの腰掛けの積りで教員になつたのですが、教育の厳しさ、楽しさを知り、将来教職の道へ進むことを決め、芸術大学へ進学し、子供達と別れ、政和を後にしました。

毎日の授業は、指導書などを参考しながら、夢中で子供の教育に当りましたが、時には授業中に助教諭で、教師としても、人間的にも未熟な教師でしたが、子供達にとつてどのような教師であつ

子供達は皆貧しい中にも素直で明るく、「いじめ」も、「不登校」もなくよい子供達ばかりでした。このようにして一年間はあつといた間に終りました。助教諭二年目は、中学二年生の担任となりました。子供達とは六年違います。

私は、社会、英語、理科、体育を担当しました。教材研究に追われる毎日で、野球部の監督もやり、自炊生活で大変忙しい思いをしましたが、充実した楽しい教員生活でした。

たのか、至らない点があつたことを反省しています。

ただ言えることは、子供達にどうして教師の資格に關係なく人間的な触れ合いが一番大切なことと思つています。

その教え子も今年七十歳と七十歳です。国立大学卒の医学博士、会社社長など各分野で活躍している姿を見て頼もしく思っています。

毎年、二泊三日のクラス会に招かれ、六十年前の助教諭時代を思い出し、教え子と夜の更けるまで飲み、語りながら、教師と教え子との関係は生涯続くものであることを実感し、教師であつたことの喜びを感じております。

今、教育界は、教育基本法の改正、査定昇給制度、校長、副校長、教頭、主幹の新たな職階制、全国一斉学力テスト、教員免許更新制、「日の丸」、「君が代」、など多くの課題がありますが、教育は時の政治によつて動かされるものではなく、常に子供の目線に立つた教育が求められています。戦前への教育回帰は絶対許してはなりません。

私は昭和七年生まれですがまだまだ元気です。時折、新十津川小

学校時代の恩師、級友を思い出しながら、今まで多くの人に支えられて今があることに感謝の気持ちを強くしています。

剣道の町と 本年のねんりんピック



(新十津川望郷会理事)
中井唯夫

美唄市

「新十津川町は剣道の盛んな町」と昔から言われ、現在も北海道は勿論のこと全国的にも有名になつております。特に新十津川中学校は毎年のように北海道の剣道大会で優勝したり準優勝に輝き全国大会に進み立派な成績を残しています。小学生も同じように活躍して全道・全国に尚武館の名を響かせているものであります。

これは明治二十二年奈良県十津川村の大暴風雨によつて集団移住した私達の先祖が開拓に精を出しつと共に子弟の教育の重要さを認識

し、心と身体の鍛錬のために剣道を奨励してきたという伝統があつたからです。

その事は「文武館」を十津川村に習つて明治二十八年に開校し当時の中学校に準じた文武の指導をした事や、昭和四十八年剣道の専用道場として「尚武館」を建設し、剣道稽古に専念利用できる環境を整備した事などからも明らかだと思います。尚武館は将来の展望に立ち、山口町長さんはじめ理事者、議会関係者などの計らいによるものに外なりません。

私は下徳富市街で生まれ橋本町で小学校時代を過ごしましたが、新十津川小学校の四・五年頃に剣道を習い始めました。運動場のすぐ横に剣道具置場があり、たくさんの剣道具が整然と吊り下げられておりました。

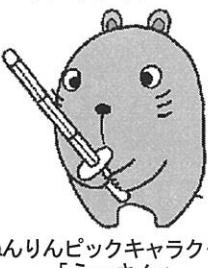
兄達の剣道に励む姿に刺激され、旧制滝川中学校時代も剣道部に入部し、國士館出身の増谷晴雄先生に厳しく教えられました。

教職に勤務し転勤などから剣道に集中できませんでしたが、退職して美唄に住み稽古を重点に励むことができました。剣連会長に推

され現在に至つてますが、全道高齢者大会で私は何度も入賞した結果から、全国健康福祉祭へ一昨年の茨城大会まで八回出場し、全国の剣士と剣道交流ができました(連続出場不可)。全国大会では生涯剣道に精進する剣士から多くの教訓を学んできました。

本年は高齢者の全国スポーツ祭典「ねんりんピック北海道・札幌大会」が九月六日(日)～七日(月)に開催され、剣道は札幌真駒内アリーナで都道府県代表六十選手団の参加が決まっています。今年は初めて女性剣道大会(五十歳以上三名)も計画され、二十一チームの申し込みとのことです。

この大会は例年熟年剣士の見ごたえのある試合が展開されており、北海道大会にも大きな期待を寄せてています。



ねんりんピックキャラクター
「うっさん」

私の剣の道



砂川市
(新十津川望郷会監事)

村上新一

私は昭和五年八月、新十津川村（現町）下徳富（現花月）四号川二線で生まれ育ちました。我々の小学生時代は全村が剣道の盛んな村ということでもあり、ご多分にももれず我が下徳富（現花月）小学校においても剣道防具が備え付けてあり、三年生からは半強制的に全員が竹刀を握らされておりました。当時の校舎、特に体育館は冬になるとスキ間から風と雪が吹き込み床が白くなり、手足の感覚もなくなる始末。ここで早朝寒稽古が十五日間も続きましたが、今思うと、子供ながらに良くも頑張れたものと自分を誉めてやりたいです。しかしこのことは私だけではなく、当時剣道を志していた者全員がそうであったものと思いま

す。

喜寿を過ぎても今なお剣道を続けていられます。このことは、先輩諸先生を始め同僚のお影であり感謝の念で一杯です。有難うございました。

最近は校内・家庭内暴力を始めとする非行問題がクローズアップされているのが現状です。一方、剣道の理念であります「礼節を尊び信義を重んじ誠を尽くして常に自己の修養に努め以つて国家社会を愛して広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである」は財団法人日本剣道連盟が昭和五十年三月二十日に制定したものであります。この趣旨に賛同し、今はあらゆるスポーツがあるなか少年少女がこの剣道を選んで入会・入部されていることは誠に嬉しい限りです。

私は自分自身を磨くとともに青少年剣士の育成のため、次の三つの袋を大切にすることを道場訓としております（大人にも通用します）。

一、お袋を大切に（両親を大切に）
一、胃袋を大切に（健康管理、早

士五段、後に上砂川町教育長歴任）から厳しくご指導を頂いたことで

寝早起き、朝ご飯)
一、堪忍袋を大切に（忍耐、根性、友達と仲良く）

さて、私は精神練磨のためなげなしのサイフをはたいて真剣名刀「農洲岡田兼義」を買い求め一端の剣豪のつもりであります。しかし、どうしても一向に上達しない

ようです。今日まで振り返ってみ

ても、大きな大会で個人優勝したのは一回（道民スポーツ網走剣道大会）のみ。どうやら「参加することに意義あり」とするオリンピック精神を地でいつていいる感があります。しかし勝敗はともかくとして、竹刀を構え気魄の充実をはかつているときの緊張感、チカラライツパイ打ち打たれた後の心地よい快感と満足感は何ものにも代え難く好きなお酒とこの道ばかりは生涯やめられそうもありません。

財団法人日本剣道連盟功劳賞受賞

(H15・11・3)

(財)全日本剣道連盟教士七段

(H6・9・18)



新十津川町トピックス

～まちの出来事～

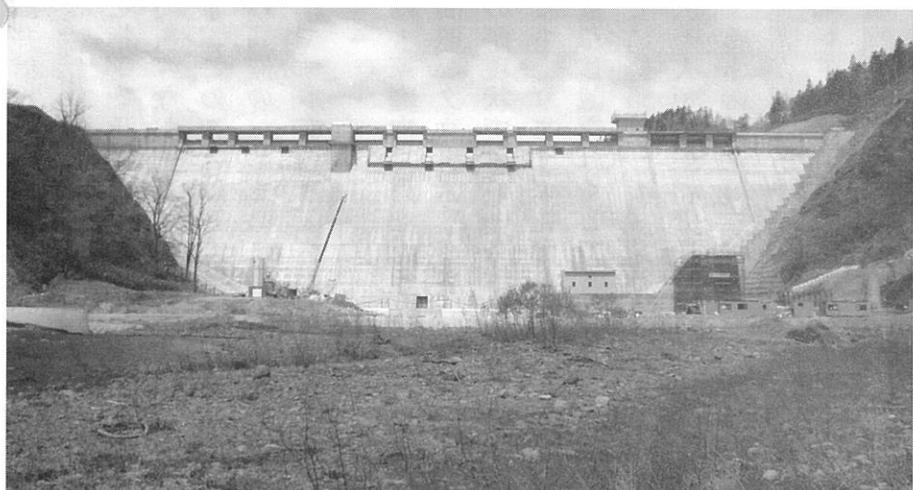
404人の児童が元気に登校

平成21年4月6日新十津川小学校で開校式と入学式が行なわれました。

これまでの新十津川、大和、花月、そして吉野の4校の伝統を受け継ぎ、更なる飛躍を胸に秘め、在校生339人と新入生65人が統合後の新十津川小学校の歴史の第1歩を歩みだしました。



徳富ダム完成まであと約1年



平成14年7月から着工し、平成16年9月にコンクリートの打設を始めた堤体は、4年半の歳月を費やし、遂に、高さ78.4メートル長さ309メートル幅5メートルの勇壮な姿を現しました。いよいよ来年2月のたん水試験に向けて着々と付属設備工事が進められています。

このダムは徳富川の北幌加地先に建設され、3千6百10万立

方メートルの総貯水容量によって、洪水調整と、新十津川、雨竜、浦臼及び月形へのかんがい用水、そして西空知水道企業団（新十津川町、雨竜町、浦臼町）への原水供給を目的としています。

徳富川は、平成11年、14年、19年に水不足による水利調整が行なわれたこともあり、今後の渇水不安の解消に向け、平成23年春の供用開始を目指します。

50年間ありがとう

町立吉野診療所と同大和診療所の所長として、50年に亘り医療活動を続けてきた医師、野田良先生がこの3月をもってその活動に終止符を打ち、3月22日に感謝の気持ちと功績をたたえる集いが開催されました。

野田先生は「昭和34年に赴任したときは、こんな雪深いところで医療活動を続けていくことに不安を感じたが、皆さんの暖かい心にふれ、気がつけば50年の歳月を過ごすことができました。ありがとうございました」と222人の参加者を前に感慨深げにあいさつされていました。



ピンネシリを往復

道内唯一の登山マラソンとして注目を浴びる第14回ピンネシリ登山マラソンが昨年7月6日にふるさと公園発着で開催されました。山頂付近が工事のため7合目での折り返しとなりましたが、大会には、4キロメートルを親子で走るファミリーコースをはじめ、15キロメートルコース、30キロメートルコース、そして7合目をめざす40キロメートルコースに2歳から78歳まで、269人のランナーが参加しました。第15回目を迎える今年は7月5日に開催されます。



観光協会長に入井繁氏が就任

新十津川観光協会の平成21年度総会が4月28日に開催され、18年間に亘って会長を務めた遠藤清一氏の勇退に伴い、入井繁氏（新十津川ボデー工業株）取締役会長74歳）が会長に就任しました。

入井新会長は就任あいさつの中で「年間行事を通して、もう一度新十津川に行ってみたいマチと思ってもらえるよう、協会員一丸となって取り組んでいきたい。厳しい時代ではあるが、地場観光と産業文化の振興に尽力したい」と抱負を語りました。

今後の主なイベントは次のとおり。

- 7/5(日) 第15回ピンネシリ登山マラソン
- 7/25(土) 第37回野外慈善ビールパーティー
- 7/26(日) 第23回しんとつかわらるさとまつり
- 9/6(日) 第6回海山フェスタ・第11回金滴蔵開き
- 10/4(日) 第12回味覚まつり
- 1/31(日) 第19回しんとつかわ雪まつり



タンチョウが飛来

町内で農業を営む鈴木誠さん（49）＝南花月＝が、自宅の田んぼに現れたタンチョウの撮影に成功しました。

鈴木さんがタンチョウを発見したのは、5月7日午前6時半ころ。農作業の準備をしていたところ、成鳥1羽、幼鳥3羽の計4羽が優美な姿で羽を休めていたのを発見。すぐにタンチョウと気づき自宅

に戻ってカメラを持ち出し、撮影に成功しました。

タンチョウの飛来は、昨年にも1羽が別の場所で目撃されており、道東の生息域が過密化している影響とも考えられています。



新十津川望郷会役員名簿

役職名	氏名	住所	電話番号	備考
顧問	山本 敬一郎			前会長
	植田 满			町長
	長名 實			町議会議長
会長	高柳 政義			札幌花月会会長、札幌郷友会副会長
副会長	谷口 次雄			
	辻本 弘道			
	中川 昭五			
	増谷 俊秀			札幌郷友会会长
理事	田崎 利勝			さっぽろ大和会会长、札幌郷友会副会长
	籐内 納			さっぽろ吉野会会长、札幌郷友会副会长
	和平 康伸			郷友会中央会会长、札幌郷友会副会长
	杉村 修			深川支部支部長
	玉堀 光夫			郷友会中央会副会长
	籐内 英之			
	中井 唯夫			
	玉置 豊			
監事	岡田 功			札幌郷友会事務局長
	村上 新一			砂川支部支部長
事務局長	佐川 純			副町長
事務局次長	熊田 義信			教育長
	石田 賢吉			総務課長

※この名簿は、個人情報保護の観点から望郷会の目的以外に使用することを禁じます。

新十津川望郷会会報第十二号
を発刊するにあたり、役員並びに会員の皆様にはご投稿のご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

来年の十三号の発行に際しましても多くのご投稿をお待ちしております。

(原稿用紙を送付させていただきますので、事務局まで電話等でご請求くださいますようお願い申し上げます。)

印刷	新十津川望郷会	新十津川町字中央三〇一番地一	新十津川町役場内	新十津川町副町長	佐川 純	二〇〇九年六月二十日発行	二〇〇九年六月二十日発行	新十津川望郷会会報	第十二号
広小路印刷株式会社	〒073-1103	新十津川町字中央三〇一番地一	新十津川町役場内	新十津川町副町長	佐川 純	二〇〇九年六月二十日発行	二〇〇九年六月二十日発行	新十津川望郷会会報	第十二号
二〇一二年七月二二三一	二〇一二年七月二二三一	二〇一二年七月二二三一	二〇一二年七月二二三一	二〇一二年七月二二三一	二〇一二年七月二二三一	二〇一二年七月二二三一	二〇一二年七月二二三一	二〇一二年七月二二三一	二〇一二年七月二二三一

編集後記